

佐伯藩『藩医考』(二)

我が家の古文書から

小野 ミヤ子

(会員 佐伯市向島)

平成十年二月末日、私は一本の掛軸を持って、佐伯史談一七〇号で我が家の古文書から「佐伯藩の藩医について」書いた、三江元節のふるさと貝塚市の永覚寺を尋ねました。天候にも恵まれ、一世紀半を経た今、元節の思いを胸に抱きながら、関西新空港へ降り立ちました。

掛軸は奥蘭田シランが書いたもので、泉佐野出身で幕末から明治中期まで、東京商工会副会頭として活躍された人ですが、佐伯とは何も関係のない人かも知れません。が、それがなぜか我が家に残されていました。

「大阪春秋」前田金五郎先生の大阪回想で拝読し、なぜ我が家にあるのか、そのことは後日調べてみたいと思っています。一本の掛軸から郷土史の一コマを知ることができ、嬉しく思っています。

泉佐野市には、この人の研究をしている方がいるそうです。

はじめに娘と二人で永覚寺を尋ねることにしました。古文書(一七〇号P一四参照)には泉州岸和田村堤とありますが、現在は貝塚市堤と言ひ、市の中心より余り離れていない静かな住宅地で、周辺には古い家屋も残っていました。

突然お尋ねしましたので、住職さんは不在でした。若い娘さんがいまして、大分県佐伯市から来た事、又この寺を建てた人のことなど、いろいろお話ししたところ、実は私方も大分県津久見市鳩浦の出身で、二代前からこの寺に住んでいます。と聞いて驚きました。



永覚寺本尊阿弥陀如来

寺は昭和二十一年火災に遭い、ほとんど焼失したとの事で、御本尊の阿弥陀様だけは持ち出し、現在こうしてお祀りしております。と説明して下さいました。おそれく戦後の物資不足の頃、これ程の寺の再建は大変だったと思いますが、きれいに掃除が行き届いており、今年は蓮如上人五百回忌とかで、意義ある時期にお尋ねできて幸せを感じました。

帰りは関西汽船の最終便で帰りましたが、東・西本願寺参拝者の団体で満員でした。

永覚寺に浜田さんが住職として来られたのは、京都で修行中、河内出身の人からこの寺を紹介され、住職として来られたそうです。寺の墓地に古い墓があり、のちに会員で大分市在住の賀来キミさんの姪ごさんが送ってくれた文書によれば、それは父円節の墓で、僧を好まず京に出て、今泉仙甫について佐伯藩へ来た三江元節が建てた墓でした。

賀来（旧姓三江）さんは体調をこわされ、今は長男で歯科医の進さんと同居していますが、老いて後先祖の事を知る事ができたと行って大変喜んでいます。私もこの家に住んでいろんなことにめぐり逢い、毎日充実した生

活が送られて幸せです。

幼い頃から母に聞かされた昔ばなしが真実であったことから、三江家の方々と交流があったかも知れないと思いい、お役に立てることができれば幸せと思っています。これからも歴史の旅が続けられるように祈りながら、亡き夫も佐伯に帰ったら思う存分歴史を楽しんだら良いと言っていた言葉を、大切にしたいと思っています。

【追記】

三年前御案内して下さいました本匠村井ノ上の羽柴栄さんが亡くなりました。私も入院中お見舞しましたが、初盆には永覚寺のことをお知らせしたいと思い、八月三十一日のメ切に間に合えました。羽柴さんありがとうございました。心から御冥福をお祈りします。

なお、貝塚市教育委員会より、永覚寺の歴史が明らかとなり感謝しています。というはがきが届きました。